



**「若者×ツナグバ」**  
**2022年度成果報告**

**Glocal Avancer**

*Since 2018*

# 「若者×ツナグバ」 活動経緯

2021年度  
実績

成果を  
活用

2022年度  
活動

- ・活動テーマ：コロナに負けるな！  
オンライン/オフライン国際交流
- ・活動地域：山口県宇部市吉部小学校校区  
広島県府中市栗生小学校校区  
在留外国人の皆様・ASEAN諸国高校生
- ・活動内容：オンライン  
留学生との相互文化紹介・国際交流講義  
ディベート・日本語トークショー  
オフライン 餅つき大会

- ・活動テーマ：「おとぎ話」で国際交流
- ・活動地域：山口県宇部市吉部小学校校区  
広島県府中市栗生小学校校区  
在留外国人の皆様
- ・活動内容：小学生による日本のおとぎ話の読み聞かせ会  
**特徴：日本語で出来る国際交流**  
**在留外国人に小学生が先生役を勤める**  
  
オンライン/オフライン 融合活動

# 活動名：「おとぎ話」で国際交流

活動地域：・宇部市吉部(きべ)地区 ・広島県府中市栗生（くりぶ）地区  
連携先：・吉部小学校・栗生小学校 生徒関係者  
・山口県の在留留学生・技能実習生

## 内容：①おとぎ話の読み聞かせ会

桃太郎、かぐや姫等のおとぎ話を小学生が先生役となって  
在留外国人に読み聞かせし、物語を在留外国人に復唱してもらう。

## ②「紙芝居」の作成

おとぎ話から一つ選び、活動の記念となる「紙芝居」を協働作成。

## 目的：「多文化共生社会の構築」

小学生には先生役となることで、国際交流への能動的な姿勢を  
身に付けてもらう。

在留外国人は年少者との交流を通じて、ゲーム感覚で日本語や  
文化の習得をしてもらう。

# 栗生小学校

(広島県府中市：昨年から継続)

国際交流活動に熱心な  
コミュニティ・スクール・カフェ校

計画策定  
学校関係者  
と協議  
4月～6月

<基本方針>：オンライン

①学内活動

- ・授業の一環として実施：6年生13名  
外国語活動70時間/年 の内数として  
GAの活動を5時間/年 程度確保

②学外活動

- ・放課後子供委員会  
委員会/保護者/生徒が任意に参加  
→今年度校長交代：前任者からの  
引継ぎ事項に明記されていた



実施内容  
7月～12月

①学内活動

- ・7月4日(月) 13時～16時  
「桃太郎」読み聞かせ会  
生徒：13名 学校関係者：18名  
留学生：4名 GA：3名  
～「桃太郎」の挿絵を留学生と作成  
2月完成予定



②学外活動

- ・10月17日～毎週月曜日夜実施  
在留外国人の日本語講座

活動まとめ  
23年2月



# 吉部小学校

(山口県宇部市：昨年から継続)

国際交流活動に熱心な  
コミュニティ・スクール校

計画策定  
学校関係者  
と協議  
4月～9月

## <基本方針>

- ①学内活動：オフライン
  - ・授業の一環として実施：5・6年生7名
  - ・コロナで実施回数と参加人数に制限
- ②学外活動：オンライン/オフライン
  - ・放課後子供委員会
  - ・委員会/保護者/生徒が任意に参加
  - 校長は前年から留任
  - GA活動への理解高い

実施内容  
9月～12月

- ①学内活動
  - ・9月7日(水) 13時～16時
  - 「こぶとりじいさん」
  - 「おむすびころりん」
  - 生徒：7名 学校関係者：12名
  - 留学生：2名 GA：1名
  - ・年度内に再訪予定(コロナ次第)
  - ～「おとぎ話」の挿絵を留学生と作成
  - 2月完成予定
- ②学外活動
  - ・10月17日～毎週月曜日夜実施
  - 在留外国人の日本語講座

活動まとめ  
23年2月





# 活動の効果

## ネットワークの拡大（全32か国）

赤字国：今年度新規連携開始



# まとめ・今後について

- 2期にわたって貴財団にご支援いただいたことで、コロナ禍でも対応できるオンライン・システムを整備し、オフラインとの融合活動の基盤を整えることができた。これにより国際交流を推進し、参加する国数は32か国に増えた。
- これまでの活動から得られた経験を活かして、更に国際交流活動を深化させる。
- 大学生が中心となって始めた活動であるが、就職する者、留学する者とメンバーの環境が多岐に渡って来た。
- メンバーの環境が変化しても活動を継続できるように柔軟な活動体制を構築する。
- 併せて、新規メンバー（高校生）の確保も忘れない。

# 参加者の声

## 栗生小学校／吉部小学校

- ・外国の人に日本語を教えるのは初めてだったが、上手に伝えるには、ゆっくり読んだり、区切って読んだり、ジェスチャーを入れると良いことを体験した。
- ・でも日本語（母国語）を「ゆっくり」話すって、難しいことが分かった。
- ・外国にも同じような話があるか尋ねてみたり、日本語独特の言い回しを共に楽しんだ。
- ・留学生の一番印象に残った言葉が笛の音の『ぴーひやらら』だったと聞いて、とても愉快だった。
- ・自分たちが読み聞かせした、おとぎ話の内容が理解できたと聞いて、とても嬉しかった。
- ・奨学金で日本に留学していると聞いて、自分も将来奨学金で留学しようと思った。

## 在留外国人（留学生・技能実習生）

- ・小学生に日本語を教えてもらうことは予想外だったが、年の離れた子供達との交流は新鮮だった。
- ・読み聞かせは子供でも日本人の普通のスピードだについていけないが、ゆっくり話したりジェスチャーを交えて、気を使ってもらっていることが分かって、有難かった。
- ・日本のおとぎ話には、単に子供向けだけではなく、人生訓が隠されていることを学んだ。
- ・ただ、日本語を覚えるだけでなく、この奥深い意義をゲーム感覚で学べてとても参考になった。